

日常の大切さ

-児童玄関で見つけたこと-

校長 土屋 美之

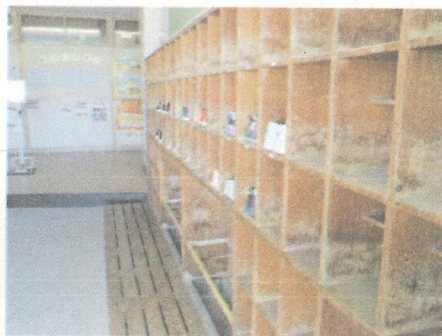
「おはようございます!」

私の朝の日課は、児童玄関に立ち、子どもたちと挨拶を交わすことです。子どもたちの元気のよい挨拶は私の元気の源でもあります。多くの子どもたちが自分から進んで挨拶をしてくれます。中には、ぺこりとお辞儀をして、挨拶をしてくれる子もいるので、朝からとてもさわやかな気持ちになります。

さて、児童玄関に立っていて、気が付いたことがあります。

それは下駄箱の美しさです。どの学年も靴のかかとを揃えています。それは見事です。かかと揃えについて、ある男の子に聞いてみました。

「かかと揃えは今の担任の先生から教えてもらったの?」
と聞くと、不思議そうな顔をして、「いや、前からです」と教えてくれました。その子は3年生でしたが、毎日当たり前にやっていることなので、私が聞いたこと自体が不思議だったのかもしれない。習慣化しているというのはすごいことで、土岐っ子にとって、靴のかかと揃えはごく普通の当たり前のようです。挨拶もその一つだと思います。多くの子どもたちが自然に挨拶をしています。



ただ、子どもたちのこんな声も聞きました。

「知らない女の人から、『お帰りなさい』と言われたらどうする?」

「『ただいま』って言う」

「えっ?どうしよう…」

この話は朝グラウンドに遊びに行く高学年の数人がたまたま会話していたものです。

知らない人から声をかけられることに対して、子どもたちなりに悩んでいるということです。挨拶は人と人を結ぶ大切なものなので、挨拶の重要性については今後も指導していきますが、地域の方に返事をしない子どもたちの中には「どうしよう」と葛藤して、悩んで声を返せない子がいることを知っておいていただけたらと思います。

最後になりますが、昨年同様、「土岐川河川敷に鯉のぼりを掲げる会」の皆様にも、土岐川だけでなく、土岐小学校にも鯉のぼりを取り付けていただきました。風になびいている鯉のぼりは壮観で、とても画になります。

鯉のぼりは中国の神話や伝説に登場する「龍」が関係しているといわれています。起源は中国ですが、日本だけの風習であり、江戸時代からの続く伝統でもあります。

鯉のぼりには、「健やかな成長と立身出世を願う」意味が込められています。「土岐っ子」が健やかに成長できるよう、家庭でも地域でも応援のほど、よろしくお願いいたします。

